

京都市上下水道事業中期経営プラン(2023－2027)

令和5年度計画 上半期実施状況

令和 6 年 1 月



【目次】 令和5年度計画の取組項目一覧

3つの視点	9つの方針	30の取組項目	頁
視点① 京の水を みらいへ つなぐ	①つくる	① 水源から蛇口までの水質管理の徹底	2
		② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進	
		③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化	
	②はこぶ	① 配水管等の適切な維持管理の推進	3
		② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化	
		③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上	
		④ 下水道管路の適切な維持管理の推進	4
		⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化	
		⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨	
	③きれいにする	① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上	5
		② 水環境保全センター施設の再構築	
		③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善	
	④まもる	① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化	6
		② 「自助」の意識啓発や「公助」の推進による災害対応力の強化	
		③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進	
	⑤いどむ	① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究	7
		② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮	
		③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成	
視点② 京の水で こころを はぐくむ	①こたえる	① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化	8
		② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開	
		③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進	
	②ゆたかにする	① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献	9
		② 創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献	
		③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献	
視点③ 京の水を ささえ つづける	①になう	① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上	10
		② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携	
	②ささえる	① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減	11
		② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化	
		③ 将来にわたって事業を持続していくための財源体質の更なる強化	
		④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討	

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

水質管理(水道)、浄水場の改築更新や維持管理



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
異臭(かび臭)のない水達成率	98.4%	100%	—	—
導水施設の耐震化率	26.8%	※設定なし		
浄水施設の耐震化率	75.7%	※設定なし		
配水池の耐震化率	53.8%	※設定なし	—	—

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

- 令和5年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施
- 令和6年度水道水質検査計画の策定
- 水道GLPに基づく精度の高い水質検査の実施
- 水安全計画の運用、見直し

上半期 実施状況

- ・水質検査計画に基づき、原水及び水道水の検査を実施
- ・令和6年度水道水質検査計画の策定に向けた検討
- ・水質検査に際しては、水道GLPに基づき手順書を見直すなど、精度の高い検査を実施
- ・水安全計画に基づき水質管理を実施、適正に運用



水質監視装置 監視画面

取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進

- 高機能な粉末活性炭の注入
- 蹴上浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備設置工事实施(R4年度事業開始・R7年度運用開始予定)
- 松ヶ崎浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備工事着手(R5年度事業開始・R8年度運用開始予定)
- 処理プロセスの最適化、高度化に向けた検討
- 施設に関する基本情報や修理履歴等データベースの活用

上半期 実施状況

- ・近年増加傾向にあるかび臭の原因物質に対し、高機能な粉末活性炭を注入し対応
- ・蹴上及び松ヶ崎浄水場において高機能な粉末活性炭注入設備設置工事を実施中
- ・浄水処理プロセスの最適化、高度化に向け、蹴上浄水場において浄水処理実験プラントの設置工事を実施中
- ・水道施設台帳管理システムを用いて、データを適切に管理・運用している

取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化

- 新山科浄水場導水トンネル築造工事实施(H29年度事業開始・R10年度運用開始予定)
- 新山科浄水場1系浄水施設改良工事着手(R5年度事業開始・R7年度工事完了予定)
- 新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事着手(R5年度事業開始・R7年度工事完了予定)

上半期 実施状況

- ・新山科浄水場導水トンネル築造工事は、シールド工事を実施中
- ・新山科浄水場1系浄水施設及び低区1・2号配水池耐震化工事発注に向け準備中



新山科導水トンネル築造工事
(トンネル掘進の様子)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
有収率	91.9%	91.8%	—	—
老朽配水管の解消率	47.8%	52.2%	—	—
主要管路の耐震適合性管の割合	59.0%	60.3%	—	—

取組① 配水管等の適切な維持管理の推進

- 配水管の洗浄作業(「京(みやこ)の水道管おそうじプロジェクト」)の実施
- 漏水調査の実施

上半期 実施状況

- ・「京(みやこ)の水道管おそうじプロジェクト」を実施(上半期実施回数 5回)
- ・漏水調査における上半期予定分をすべて実施(一般漏水調査 1,098km/約2,300km、漏水分布調査 3,579か所/約7,500か所)

取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

- 老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 52km
- 低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施(H26年度事業開始・R7年度工事完了予定)
- 高区花園連絡幹線配水管 布設工事完了(H26年度事業開始・R5年度工事完了予定)
- 低区五条連絡幹線配水管 布設工事完了(R4年度事業開始・R5年度工事完了予定)

上半期 実施状況

- ・老朽化した配水管(補助配水管含む)耐震化工事を実施中(32km)
- ・地震等災害時における給水のバックアップ機能強化のための各連絡幹線配水管布設工事を実施中



配水管工事

取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上

- 貯水槽水道の設置者への啓発・助言
- 直結式給水のPR
- 新規指定給水装置工事事業者を対象とした説明会の実施
- 事業者を対象とした更新制度の実施

上半期 実施状況

- ・貯水槽水道の管理状況調査を実施
- ・直結式給水に関する情報を局ホームページに掲載するとともに、貯水槽水道設置者への直結式給水への切替えに関する情報を提供
- ・新規指定給水装置工事事業者説明会を実施
- ・更新対象となる指定給水装置工事事業者に対し、更新手続きを完了

目次

視点①

視点②

視点③

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理

3 すべての人に
健康と福祉を



6 安全な水とトイレ
を世界中に



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
下水道管路改築・地震対策率	28.1%	31.5%	—	—

取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進

- 下水道管路の計画的な巡視や点検調査
- 腐食のおそれ大きい箇所(point)の点検調査 2.3km

上半期 実施状況

- ・市内全域でデータベースを活用した巡視点検を実施中
- ・腐食のおそれ大きい箇所について、委託契約を行い、順次点検調査を実施中



下水道管路の巡視・点検の様子

取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化

- 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km

上半期 実施状況

- ・老朽化した管路や重要な管路の中でも、特に破損等のリスクが高い旧規格の管路を対象として、計画的に管路内調査を実施
- ・管路リニューアル工事及び管路地震対策工事で管路の布設替えや管更生を実施中



下水道管路の更生工事

取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨

- 全戸訪問による水洗化勧奨の実施
- 工場・事業場への立入検査 年間1,200回以上

上半期 実施状況

- ・未水洗家屋の解消に向け、毎年、対象全戸に対するきめ細やかな水洗化勧奨(訪問、文書等)を実施中
- ・貸付金や高齢者向けの助成金等、水洗便所設置に係る各助成制度による支援
- ・工場・事業場への立入検査を実施(上半期検査回数 653回)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理(下水)、水環境保全センターの改築更新や維持管理



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	—	—
処理施設の改築更新数(R5-R9)	累計37施設 (H30-R4)	10施設	—	—
合流式下水道の改善率	90.1%	100%	—	—

取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上

- 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施
- 基本情報や修繕履歴等のデータベースの運用・更新
- 水質管理計画の見直し・継続運用
- 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施

上半期 実施状況

- ・点検整備計画に基づき、施設の定期整備を実施
- ・基本情報や故障修繕履歴等データベースの整理を実施
- ・目標水質達成のため、水質管理計画において試験項目・頻度を定め、効率的な水質管理を実施
- ・水環境保全センターの運転管理や水質分析に関する調査・研究を継続実施

取組② 水環境保全センター施設の再構築

- 鳥羽水環境保全センター消毒施設運用開始
(R2年度事業開始・R5年度運用開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手
(R5年度事業開始・R9年度運転開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の貯留水を鳥羽水環境保全センターへ送水開始

上半期 実施状況

- ・消毒施設築造工事を実施中
- ・汚泥焼却炉改築工事発注に向け準備中
- ・吉祥院支所の第1導水きょ送水ポンプ設備工事を完了し、鳥羽水環境保全センターへの送水を開始



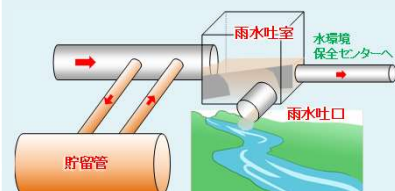
鳥羽水環境保全センター消毒施設
(塩素混和池)

取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善

- 合流式下水道改善対策施設の整備完了
- 合流式下水道改善対策施設の継続運用

上半期 実施状況

- ・各合流式下水道改善対策施設の整備工事を実施中
- ・整備済みの合流式下水道改善対策施設を継続して運用中



一時的に貯留する施設を整備
貯留管による対策イメージ

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、自身や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策(公助、共助・自助)や浸水対策



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
飲料水の備蓄率	61.9%	62.4%	—	—
雨水整備率(10年確率降雨対応)	33.0%	33.1%	—	—

取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化

- 各種計画、マニュアル及びBCPの運用、点検及び見直し
- 災害を想定した実践的なマニュアル運用訓練及び研修の実施
- 大都市や京都府下の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施
- ICTを活用した防災・危機管理情報の発信方法の検討
- 災害用マンホールトイレの継続的な整備
- 仮設給水槽の増台 10基
- 防災拠点等への仮設給水槽の配備、運用



マンホールトイレ
(左上は設置時の様子)

上半期 実施状況

- ・各種計画やマニュアル等に基づく防災危機管理研修や、民間事業者との防災訓練を実施するとともに、他都市や京都府下の自治体との防災訓練に向け調整中
- ・防災・危機管理情報の発信ツールについて検討中
- ・小中学校等に災害用マンホールトイレの整備工事を実施中
- ・仮設給水槽を局施設へ分散配備

取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化

- 災害用備蓄飲料水の積極的かつ効果的な啓発活動
- 自助に関する情報発信の充実及び強化
- 各区役所・支所と連携した自主防災組織への防災研修の実施
- 各行政区、学区、地域等が主催する防災訓練への参加
- 共助に関する情報発信の充実及び強化

上半期 実施状況

- ・各種イベントや事業PRリーフレットにおいて、災害用備蓄飲料水や備蓄の必要性について啓発
- ・南区自主防災組織連合会への研修を実施
- ・京都市総合防災訓練をはじめとした市内防災訓練に向けた調整

取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進

- 鳥羽第3導水きょ工事実施(R2年度事業開始・R9年度運用開始予定)
- 烏丸丸太町幹線工事実施(R2年度事業開始・R7年度運用開始予定)
- 伏見水環境保全センター雨水滞水池工事実施(R2年度事業開始・R6年度運用開始予定)
- 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進
- 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進

上半期 実施状況

- ・市内中心部の浸水に対する安全度を向上させるため、各幹線工事及び雨水滞水池工事を実施中
- ・雨水貯留施設及び雨水浸透ますの助成を実施
- ・京都市「雨に強いまちづくり」推進本部会議をはじめ、合同地区別検討会を実施



鳥羽第3導水きょ
(発進立坑)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

新技術の調査・研究、広域化・広域連携等



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
新技術の調査研究件数 (R5-R9)	累計143件 (H30-R4)	年間30件	—	—

目次

視点①

視点②

視点③

取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究

- 新技術の調査・研究の実施
- 外部機関との共同研究の局ホームページによる募集、実施
- 各研究発表会(全国水道研究発表会、全国下水道研究発表会等)や論文掲載等での研究成果の発信

上半期
実施状況

- ・高画質カメラを活用した下水管内調査の効率的な調査手法について、外部機関と共同で調査研究を継続実施
- ・全国下水道研究発表会及び日本水環境学会において研究成果を発表



高画質カメラによる調査試行状況

取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮

- 「京都水道ランドデザイン」等関連計画に基づく広域化の在り方の検討
- 広域連携の取組の推進(共同研修、水質検査の受託、資機材の相互融通に向けた検討)
- 大都市や京都府下の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施【視点①-方針④-取組①再掲】
- 上弓削農業集落排水事業の京北特定環境保全公共下水道事業への統合に向けた産業観光局との連携
- 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画

上半期
実施状況

- ・京都府主催の圏域会議に参加し、京都府及び府下自治体と広域化・広域連携の在り方について協議
- ・長岡京市から水質検査(異物試験)を受託
- ・民間事業者との防災訓練を実施するとともに、他都市や京都府下自治体との防災訓練に向け調整中
- ・上弓削農業集落排水事業統合に向け、計画変更手続きや台帳整理等の準備作業を実施中
- ・琵琶湖・淀川生物障害等調査小委員会や琵琶湖全域合同調査等に参加

取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成

- JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ
- 他都市との情報交換等の実施
- 職員の知識・技術力の向上(JICA能力強化研修等への受講機会の設定等)

上半期
実施状況

- ・他都市と合同で令和5年度JICA課題別研修「都市上水道維持管理」を実施
- ・上記研修にあたり、他都市との意見・情報交換を実施
- ・国際協力事業や研修等の情報について職員に周知

視点② 京の水でころをはぐくむ

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待にこたえ続けます

お客さまサービス、広報・広聴活動



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
サービスの利用全般に対するお客さま満足度	—	70%以上	—	—
インターネットを活用したサービスの利用件数	年間44,362件	年間40,000件	—	—
広報活動の認知度	25.2%	30.0%	—	—

取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化

- 大口使用者利用状況調査による新たなサービスに関するニーズの調査、地下水等利用専用水道使用者への訪問・ヒアリング
- お客さま対応研修の実施・ご意見メール等への対応

上半期 実施状況	・大口使用者に対するアンケート調査の準備 ・地下水等利用専用水道使用者に対し、適宜利用状況や課題について聞き取りを実施 ・お客さま対応研修を実施 ・ご意見メールに随時対応
-------------	--

取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開

- 請求及び支払いのデジタル化によるペーパーレス推進
- 新たなサービス(スマホアプリなど)の導入検討・構築
- お客さま対応デジタル化の調査・研究
- 水道スマートメーターに関する調査・研究

上半期 実施状況	・スマホアプリの機能等について調査・検討中 ・水道スマートメーターについて、公益財団法人水道技術研究センターが主催する新規プロジェクト「New-Smartプロジェクト」に参画を決定
-------------	---

取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進

- 広報・広聴戦略に基づく、上下水道事業への理解促進につながるイベント等の実施、広報紙の各戸配布
- お風呂入浴PR、給水スポット利用促進
- クロスメディア広報の展開
- オンラインを活用したモニター制度等の実施

上半期 実施状況	・水道週間、水の日及び下水道の日にちなんだイベントを実施 ・ミスト装置の貸出を実施 ・夏休み下水道施設見学会を実施 ・祇園祭山鉦巡行をはじめ、各イベントで水道水や給水スポットのPRブースを出展 ・「蹴上のつつじ」、「鳥羽の藤」のPR動画を制作・公開 ・上下水道モニターに対する見学会等を実施	 「水道週間」街頭キャンペーン
-------------	--	--

視点② 京の水でところをはぐくむ

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやところをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 292.8万人	年間 15.6万人	—	—
事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H25比)	36.8%	32.7%	—	—
汚泥有効利用率	67.1%	70.0%	—	—

取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献

- 疏水路の維持管理・整備
- びわ湖疏水船航路延伸に向けた、4隻目となる新船建造
- 疏水船スタッフの育成等の運営支援及び市民乗船会等
- 琵琶湖疏水関連施設の魅力向上策及び整備推進等
- 琵琶湖疏水記念館における賑わい創出に向けた整備

上半期 実施状況

- ・疏水路の緑地維持管理や施設の点検整備を実施
- ・びわ湖疏水船の新船建造
- ・航路延伸に向けた訓練における乗船ガイド及び操船者の人材育成について事業者と調整
- ・疏水沿線曲がり角サインの整備や蹴上インクラインドラム工場の活用に向けて調査・検討中
- ・疏水記念館において「そすいカフェ」や特別展を実施するとともに、外壁整備・改修工事を実施中



琵琶湖疏水記念館テラス整備イメージ

取組② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献

- 省エネ・高効率機器の採用、照明のLED化による使用電力の削減
- 太陽光発電等の創エネルギーの取組の継続的運用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手【視点①-方針③-取組②再掲】
- 環境マネジメントシステムの継続的運用
- 環境報告書の発行

上半期 実施状況

- ・水質第1課及び第2課の庁舎について、LED照明に順次更新中
- ・局施設に設置した太陽光発電設備(14か所)及び小水力発電設備(1か所)の適切な管理により機能を維持し、継続的に運用
- ・汚泥焼却炉改築工事発注に向け準備中
- ・4つの環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、全ての事業所が各EMSの実施計画に基づいた取組を継続実施
- ・環境報告書に掲載予定のデータや紙面構成等の更新作業中

取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

- 固形燃料及び消化ガスの有効活用
- 焼却灰等の有効利用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手【視点①-方針③-取組②再掲】

上半期 実施状況

- ・下水汚泥から生成された固形燃料化物は火力発電所で、消化ガスについては汚泥焼却炉の補助燃料として継続的に活用
- ・下水汚泥の焼却灰をセメント原料として利用
- ・汚泥焼却炉改築工事発注に向け準備中

目次

視点①

視点②

視点③

視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
技術系資格保持者の割合	40.2%	42.0%	—	—

取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上

- 中堅・若手職員に向けた体系的な技術研修の実施
(年間延べ受講者数500人)
- e-ラーニングの効果的な活用
(技術研修受講者への確認テストの平均点90点)
- 災害対応力やデジタル力向上に資する実践的な研修、資格取得支援
制度の拡充
- 若手職員の活発な交流機会の創出
- コンプライアンス研修の実施
- OJTを強化する取組や人事交流の推進
- 働き方改革の推進



中堅・若手職員に向けた
技術研修の様子

上半期 実施状況

- ・専門技術研修及び中堅技術研修を実施(上半期実施講座
専門技術研修 11講座、中堅技術研修 3講座／上半期受
講者数 316名)
- ・e-ラーニングを活用し上記研修内容に応じた確認テスト
を実施(上半期平均点 96点)
- ・体験型研修施設を活用した災害対応研修を実施
- ・資格支援制度の対象資格の拡充を実施
- ・新規採用職員研修における先輩職員との交流等を実施
- ・コンプライアンス研修を実施
- ・OJT講座、メンター研修を実施するとともに、市長部局と
の人事交流や、国・他団体等への派遣を実施
- ・働き方改革の一環として朝方勤務の実施、及びモバイル
ワークを導入

取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携

- 水道・下水道のご利用等に係る情報発信
- 市民・事業者による水道技術研修施設の活用
- オープンデータの取組の推進
- 公契約基本条例に基づく取組の推進
- 緊急対応業務等の上下水道サービス協会への委託(継続)
- 上下水道サービス協会との災害時協定書の見直し

上半期 実施状況

- ・京の水だよりmini Vol.16を検針時に全戸配布
- ・水道技術研修施設において他都市向け研修(上半期実施
回数 3回)及びすいどう親子体験会を実施
- ・オープンデータの更新及び新規掲載
- ・案件ごとに分離分割発注の可否を精査するなど、市内中
小企業の受注機会増大に努めた
- ・上下水道サービス協会に緊急対応業務等を委託すると
ともに、同協会との災害時協定書を締結



検針時配布リーフレット

視点③ 京の水をささえつづける

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	42.1億円	60.5億円	—	—
企業債残高	4,056億円	4,009億円	—	—

目次

視点①

視点②

視点③

取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減

- 管路及び施設等に関する情報のデジタル化の推進
- 管路の事業量・事業費の更なる平準化に向けた調査・検討
- 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施
- 庁舎長期修繕計画に基づく修繕の実施
- 工事検査の手法改善の継続実施

上半期 実施状況	・管路や施設等の基本情報をまとめたデータベースを適宜更新 ・施設マネジメント推進プロジェクトチームにおいて、必要となる管路情報のデジタル化を進めるとともに、新たな更新需要・費用の予測について検討を実施 ・建設事業計画及び庁舎長期修繕計画に基づき事業を推進 ・工事検査書類の事前提出や検査体制の強化、検査制度に関する情報収集等を継続的に実施
-------------	--

取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化

- 第7期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編、職員定数の削減(△37人)
- 民間活力の導入の推進(給水装置関連業務等の委託化)
- デジタル技術を活用した業務の効率化
- 新技術の導入に向けた調査・研究
- 業務システム用サーバ仮想化の実施

上半期 実施状況	・第7期効率化推進計画に基づき、組織・業務の再編、職員定数の削減を実施(R5削減定数 37人) ・給水装置関連業務の委託を開始 ・RPA等デジタル技術の継続活用、及び新規活用・導入に向けた検討を実施 ・浄水・下水処理の高度化や水質管理、施設の維持管理等に関する新技術について情報収集を実施・共有 ・システムサーバについて、仮想化基盤に係る構築作業を継続実施
-------------	--

取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化

- 資産維持費の活用等による企業債の発行抑制及びこれによる支払利息の削減
- 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保
- 一般会計からの繰入金(出資金)の休止
- 保有資産の有効活用の検討及び売却・貸付の推進
- 上下水道局旧本庁舎跡地の暫定活用
- 新たな収入源の検討

上半期 実施状況	・積立金等のこれまでに確保した自己資金を活用し、企業債残高を削減するとともに、下水道大規模更新等に備えた積立金の確保に努めた ・一般会計からの繰入金(出資金)を引き続き休止 ・保有用地の活用に向けて境界確定作業等準備を進めるとともに、旧本庁舎跡地を時間貸駐車場として活用
-------------	---

取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討

- 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理
- 経営審議委員会等の意見を踏まえた経営評価制度の充実及び実施
- 経営状況に係る情報発信
- 水道施設維持負担金制度の運用
- 将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討

上半期 実施状況	・単年度事業計画を策定し、進捗管理を実施 ・令和4年度決算や、経営審議委員会の意見を聴取・反映し作成した令和5年度経営評価等を局ホームページで公表するなど、経営状況に係る情報を発信 ・料金制度に係る課題の抽出及び調査・研究を実施
-------------	--